

船舶事故調査報告書

平成26年8月7日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵 男（部会長）

委員 庄 司 邦 昭

委員 根 本 美 奈

事故種類	操縦者死亡
発生日時	平成25年6月16日（日） 12時07分ごろ
発生場所	群馬県 ^{かん} 神流町所在の高橋上流の神流川 神流町所在の四等三角点山ノ神から真方位155.5° 160m付近 (概位 北緯36° 05.4′ 東経138° 48.1′)
事故調査の経過	平成25年6月17日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての操縦者からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	カヌー（船名なし）、総トン数なし なし、個人所有 1.91m×0.65m×不詳、ポリエチレン 機関なし、不詳
乗組員等に関する情報	操縦者 男性 48歳
死傷者等	死亡 1人（操縦者）
損傷	なし
事故の経過	<p>本船は、操縦者が1人で乗り、神流川において、高橋の上流から川を下る際、カヌー仲間6人（以下「グループ」という。）のリーダーが、先に川を下り、OKサインを示したことを確認して出発した。</p> <p>操縦者は、事前に決められた川の左岸側を通るコース（以下「予定コース」という。）と異なる右岸側のコースに向かい、リーダーが左岸側に向かうようにサインを出したものの、航行を続け、段差がある場所で降下し、平成25年6月16日12時07分ごろ、深さ約2mの石で囲まれた^{くぼ}窪み（以下「窪み」という。）に入り、本船と共に浮上できなくなった。</p> <p>グループは、本船が見えなくなった直後に大きな音を聞いたことから、本船が向かった辺りに急行し、3人で本船が水没したと思われる窪みに近づき、ロープを使って操縦者の救助を試みたものの、操縦者に届かず、ロープを何度も操縦者に送ろうとしたが、ロープの浮力及び強い水流で届けることができなかった。</p> <p>グループは、電話で消防署のレスキュー隊の出動を要請した。</p>

	<p>操縦者は、消防署のレスキュー隊が付近の道路に到着した直後、窪みから浮上し、レスキュー隊に救助されたが、意識不明の状態であった。</p> <p>操縦者は、レスキュー隊による心肺蘇生措置を受けながら、救急車及びドクターヘリで病院に搬送されたが、17日死亡が確認され、溺水による低酸素脳症と検案された。</p> <p>本船は、後日、下流の川岸に漂着しているところを発見された。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北西、風力 1、視界 良好</p> <p>水象：神流川は、ふだんに比べて水量が多かった。</p>
その他の事項	<p>操縦者は、健康であった。</p> <p>操縦者は、神流川で川下りをするのは初めてであった。</p> <p>操縦者は、ヘルメット、ウェットスーツ、カヤック用ブーツ及び救命胴衣を着用していた。</p> <p>本船は、船体やパドルなどの装備に不具合はなかった。</p> <p>グループは、午前中に各自が自由にカヌーを漕いだ後、全員でコースの下見を行い、下ることができるコースを決めた。</p> <p>グループは、川の上流及び下流の両岸を見ることができる場所に2人を配置してレスキュー体制を採っていた。</p> <p>グループの3人は、操縦者より先に予定コースを下り、そのうちの2人は、レスキュー体制を採っており、操縦者が予定コースに向かわない状況を認め、予定コースに向かうように指示したが、操縦者からの反応はなかった。</p> <p>本事故発生場所は、通常の水量のときには、水が流れない場所であった。</p> <p>操縦者が入った窪みは、人間1人及び本船が完全に入るスペースであった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>操縦者の死因は、溺水による低酸素脳症であった。</p> <p>本船は、神流川において、高橋の上流から川を下る際、操縦者が、予定コースと異なるコースを航行したことから、段差がある場所で降下して窪みに入り、浮上することができなくなり、死亡するに至ったものと考えられる。</p> <p>操縦者が予定コースと異なるコースを航行した理由は、明らかにすることができなかった。</p> <p>操縦者は、本船と共に窪みに入り、水流に押されて浮上することができなかったものと考えられるが、その状況を明らかにすることはできなかった。</p>

原因	本事故は、本船が、神流川において、高橋の上流から川を下る際、操縦者が、予定コースと異なるコースを航行したため、段差がある場所で降下して窪みに入り、浮上することができなくなったことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 事前に確認した安全なコースを下ること。